

関大自転車部創成期・黎明期の軌跡

関大八十周年記念事業参加の奇跡

1期の柳田です。

部の創成期について自慢げに語るものではなく、自身の思い出として心に留め置くものと思っておりましたが、周囲からの説得もあり私が元気なうちにお伝えするのが使命と思うようになり重い腰を上げた次第です。

「関輪」の紙面をお借りし、五十数年前の自転車部創部時代のこと、関大八十周年事業参加のこと、その時多くの方々（教授、諸先輩方）の強力なご支援ご協力を得たこと、等々を皆さん方に忠実にご披露したいと思います。幸いにも当時の色々な資料がありましたので、その資料を見て思い出しながら筆を執りたいと思います。若い方々にもこの拙文をお読みいただき、今後の自転車部の発展に少しでもお役にたてればと思っております。

昭和30年代に入り自転車は物を運ぶ運搬機能から、スポーツ、レクリエーション機能へと変化していき（ヨーロッパでは既に森林浴ツーリングとしてサイクリングは老若男女のあいだで盛んに発展していた）、日本でも遅まきながら徐々にサイクリングは娯楽として認知されつつありました。

そのような時代背景のもと、昭和38年12月（私が2回生の時）、スポーツとしてのサイクリング同好会を立ち上げるべく、学生課へ「関西大学サイクリング同好会」を申請しました。ところが、既に1ヶ月ほど前に同名の届が申請されております、との学生課から返事がありました。受理されるには別の名前で申請し直す必要がありました。その時学生課の達磨氏（関大の先輩で、昭和40年代野球部第二期黄金時代の監督）から、名前の変更よりも、先に届け出た人と話し合っ合併した方が早いですよ、との貴重なアドバイスをいただき、早速、足立君とともに山の谷の学生寮の斉藤君（初代会長）を訪ね、合併の話し合いをしました。基本方針の違い（柳田側：体育会系として、斉藤君側：文科系で楽しむ）から合併は難航しましたが、斉藤君の調整により昭和39年1月18日に合併し、会長に斉藤君（内部組織固めと纏め役）、副会長に私（渉外担当）ということで発足しました。顧問を森省三教授（憲法）にお願いし、2月と3月は在校生（2期生）を勧誘、また4月は新入生を誘いました。そして64名の大所帯の部員で出発することとなりました。ほとんどの部員はサイクリング車を持っておらず、訓練はスポーツ体験者（新谷君：柔道、福岡君：テニス、私：剣道）が担当してスケジュールを作成し、経済学舎の裏の名神高速道路（1年前に開通）のトンネルの上で基礎体力の訓練を行いました。

昭和39年2月、数あるサイクリングメーカーと交渉し、最終的に川村産業㈱一社に絞り

交渉を開始しました。そして同好会の基本方針「スポーツとしての自転車」を訴え、また私と新谷君の二人で西日本一周50日間約4千キロを走破する計画を説明しました。当時の家庭の自転車は10年間で大体5千キロが標準でしたので、会社も興味を示し、色々な条件のもとスイス製十段切替ドロップハンドル2台をモニターとして提供していただきました。

この西日本一周サイクリングの計画は昭和38年9月、私が2回生の時に計画したもので、実施するならサイクリング同好会を立ち上げ、同意する会員と一緒に回ろうということで、前述のような経過をたどり同好会を創ったものです。

西日本一周するについては、同年11月に伊澤孝平教授（私の商法ゼミの先生で東北大学名誉教授）を通じ、校友会事務局長の神屋敷民蔵氏（関大校友会の創立者で一生を校友会に捧げられた大先輩で、当時で校友会員16万人）を紹介していただき、49泊する各地域の宿舎を神屋敷局長に報告し、局長から各支部にご連絡いただき、各支部から強力なご協力をいただきました。昭和39年1月斉藤君側と合併した後、伊澤教授にサイクリング同好会を発足したことを報告し、同教授から新聞社（朝日、毎日、サンケイ）を紹介され、各新聞社を訪問しヨーロッパの自転車関連の情報を得ることができました。またワンダーフォーゲル部の顧問であった上林教授（政治学）も紹介していただき、部の運営について色々ご教授をいただきました。また体育会に入るならこの人物に挨拶をしておきなさい、ということで体育会の竹中本部長を紹介していただき、同年2月本部長に挨拶を済ませました。体育会本部長は応援団出身者がほとんどで、当時の応援団は「やくざ」紛いのいでたちと容貌だったので物凄く恐ろしかったのを記憶しております。

西日本一周は上記のような経緯で計画し、川村産業㈱に西日本一周の計画、意義、効果等々について、出発までの間に5～6回訪問し、前述のような了解を取ることができました。

しかも活動の一環として10万円（現在価値で大体100万円～130万円）も提供していただきました（当時の親からの仕送りは1ヶ月1万円が相場）。川村産業㈱との色々な条件とは、①大学とサイクリング同好会の宣伝はしないこと（関大のペナントとワッペンのみ可）、②1週間に一度会社へサイクリング車のコンディションを報告すること、③福岡の川村産業㈱の営業所へ立ち寄ること（7月25日）、という条件を交渉の最後に約束し、5月17日川村産業㈱と合意し締結いたしました。それまでの間に全行程（約4千キロ）の道路状況（舗装、非舗装、アップダウン）、観光地や寺社仏閣を、西日本すべての国土地理院の5万分の1地図を購入して調査し、それでも判明しない分は各走破地域の校友会支部または県庁観光課、その他に依頼して地図を求め、念入りに緻密に走行道路の調査を行いました。

さて西日本一周の企画を実行に向けて精力的にこなしているときに、5月後半には川村産業㈱から自転車54台を購入（中古車で格安にいただいた）し、同好会として初めて箕面公園ツアー（5月）と大津一泊ツアー（6月）を行いました。また大量の自転車を保管する場所が無く、学生課の達磨先輩に相談すると、自らキャンパス内を汗かきながら隅々まで探していただき、やっと保管する場所（3か所に分散保管）を見つけていただき、「ほっと」したのを思い出します。

さて、私の西日本一周企画と同時に、同好会としての夏のツアーを計画し、3つのコースを追加設定しました。①能登半島一周（約768^{km}、8名参加）、②淡路島一周（約200^{km}、25名参加、2班）、③南紀一周（約550^{km}、15名参加）の3コースで、それぞれ出発日を能登班（8月17日出発）、淡路島班（8月26日出発）、南紀班（8月20日出発）に設定、④西日本班2名は7月14日に出発し、大阪への帰還は全班8月29日に、全員が大阪城へ凱旋するように設定し、夏の一大イベントは無事成功裏に終えることができました。部員全員が成功を大いに喜び、部として的一致団結心が芽生え、愈々同好会の将来への位置づけと希望が湧いてきた瞬間であり、今でもその時の心のときめきをよく覚えております。

夏のツアー中、能登半島一周班の一人が赤痢にかかり入院したと、8月24日に私のところへ連絡が入り（西日本一周途上の香川県高松市44日目）、すぐに校友会の神屋敷事務局長に事の経緯を連絡し了解を得ました（一番心配していたのは、この事件で同好会の解散命令が出るのではないかということでした）。また夏のイベントが終わったある日、神屋敷事務局長から声がかかり、柳田君に紹介したい人がいるとのことで、ご一緒すると大島謙吉氏を紹介されました。大島謙吉氏は皆さんご存知の通り、関大の大先輩で、1932年のロスアンゼルスオリンピック三段跳びの銅メダリスト、世界記録保持者、毎日新聞ドイツ特派員、昭和39年（1964年）東京オリンピックの強化本部長及び選手団団長、大阪体育大学創設者の一人で、副学長、名誉教授を歴任した人物です。現在関西大学では、大島謙吉氏の遺徳を忍び「大島謙吉スポーツ文化賞」が制定され、顕著な成績を残した者にこの文化賞が授与されています。

紹介されたときは、まさかこの秋の東京オリンピックの選手団団長になれるような大人物とは・・・、本当にびっくりしました。

神屋敷校友会事務局長には本当にお世話になりました。ツアー中は各支部へ局長から予め連絡がいており、各支部へ立ち寄ると大歓迎を受けました。本当に感謝感激の大先輩です。

そして昭和39年11月3日の奈良ツアーを最後に、2期（2回生）に引き継ぎました。

昭和40年5月、4回生のとき、思いもよらぬところから声がかかりました。関西大学は昭和40年に創立80周年を迎えることとなり、その記念行事に「全国一周サイクリングツアー」を行うこととなった、についてはそのツアーに同好会のメンバーが賛助同行してほしい、と記念事業実行委員長の石村氏から声がかかりました。予算は記念祭予算の10%、115万円（現在価値で約1200万円～1500万円）、5班で①東海地区（東京出発）、②北陸地区（富山出発）、③四国地区（高知出発）、④日豊・山陽地区（鹿児島出発）、⑤北九州・山陰地区（熊本出発）、いずれも10月23日に一斉にパープルブルーフェスティバル会場（大阪市北区扇町の大阪プール）に帰還する、各地の校友会支部を訪問し森川学長の挨拶状（メッセージ）を代読し各支部長に手渡す、1班あたり5名で内3名が同好会で賛助同行（2名を一般学生から選出）する、という壮大な計画でした。会としてはサイクリング同好会の存在を知らしめる絶好の機会であり一つ返事で応諾いたしました。

でも何故サイクリング同好会なのか？何故このような関大の大事な周年行事に創部間もない同好会に白羽の矢が立ったのか？

後で石村氏から聞いた話ですが、サイクリング同好会を使うのを体育会は猛反対したそうです。全国一周であれば、自動車部、陸上部、ワンダーフォーゲル部等々歴史ある部があり、まだ創部して2年目の同好会（学内143番目のクラブ、因みに142番目は桂三枝：現桂文枝の落語研究会）を主役にするのは如何なものか、と。その時石村氏は校友会の神屋敷事務局長（全国各地の校友会支部の協力が絶対必要、校友会から記念祭の資金が半分出していた、等々で神屋敷氏の発言力が非常に大きかった）に相談したところ、サイクリング同好会で良いという返事だったようです。また体育会の中でも竹中本部長、またOBの大島大先輩、ワンダーフォーゲル部顧問の上林教授が後押ししていただいたようです。それと実行委員会のメンバーには体育会系と文化会系が入っており、当時両者は仲違いをしている状態で、どちらにも所属していないサイクリング同好会が重用されたことも幸いしたものと思われま

す。いずれにしても、このような歴史ある大学の一大イベントに、創部間もないわが同好会が選ばれたのは本当に「奇跡」としか言いようがありません。上述の諸先輩方と面識があった私も少しばかりお役にたてたのでは(?)、と思っております。

この機会を「関西大学サイクリング同好会ここにあり！」をPRする絶好の時であり、絶対に成功させねばなりません。それからは部員全員で成功させるための綿密・緻密な調査を、毎日、夜遅くまでおこないました。

そして昭和40年10月23日午後、全班が一斉にパープルブルーフェスティバル会場（大阪プール）に無事に帰還しました。読売新聞社のインタビューと写真を先ず撮り、石村委員長と森川学長の記念祭開幕宣言と挨拶の後、18:00時丁度、花火が一斉に打ち上げられ、サーチライトの中全疾走者がプールサイドを一周し、斉藤会長の「只今無事に帰ってまいりました」の一声を合図に、一万数千人の観衆から割れんばかりの歓声と拍手が鳴りやまず、同好会として本当に誇らしい気分を味わった瞬間でした。50年以上経た今でもあの感激は忘れることができません。

また、昭和40年秋の関大創立80周年記念祭（第5回千里祭、10月30日～11月3日）には、「スポーツとしての自転車」と銘打って法文学舎にブースを提供していただき、前年の夏のイベント（大阪城へ凱旋したツアー）を中心に展示発表し大きな話題をさらいました。交代で学舎の展示場で寝泊まりしたのが懐かしい思い出です、また伊澤教授の薫陶を受けたゼミ仲間の友情に甘え、全員でサイクリング同好会のブース前、垂れ幕をバックに卒業記念写真を撮ったのを覚えております。

10月30日には関西大学創立80周年記念式典が千里山キャンパスであり、サイクリング同好会を代表して私が参加させていただきました。その席でサイクリング同好会が中心となって80周年事業が無事に成功裏に終えたことを大々的に森川学長や石村実行委員長から発表があり、同好会の代表として大いに誇らしく感じたことを思い出します。また全国各地から参加されていた校友会支部の方々と再会し、ツアーでお世話になったお礼や思い出話

に花が咲き、本当に良い時間を過ごしました。この席で石村氏から前述しましたサイクリング同好会の参加の裏話を聞き、神屋敷事務局長、大島大先輩、その他関係諸先輩に感謝・感謝の気持ちがいっぱい目頭が熱くなったことを覚えております。

卒業後19年目の昭和59年、関西大学100周年記念祭（昭和60年）には、体育会から「関西大学体育会100年の歩み」が発刊されるので、急成長している体育会自転車部について、創部時のことについて寄稿文を提出してほしいとの依頼があり、拙文ながら掲載させていただきました。そして翌年100周年記念祭が万博記念公園で開かれ、神屋敷校友会終身事務局長からの出席要請により参加させていただき、90歳近い局長と久しぶりにお会いすることができ、昔話に花を咲かせました。この会場で神屋敷先生、また創部時、80周年記念行事時にお世話になった数多くの諸先輩や校友会支部の方々にお会いして感謝の気持ちをお伝えしたのは言うまでもありません。つい先日の事のように思い出されます。

ここで軌跡を時系列的に纏めさせていただきます。

(2回生)

昭和38年 9月

・西日本一周サイクリングを発案

昭和38年11月

・斎藤君「関大サイクリング同好会」を学生課に申請

・伊澤教授から神屋敷校友会事務局長を紹介され訪ねる

昭和38年12月

・学生課に「関大サイクリング同好会」を申請したところ既に同名の同好会が申請されていたことが判明。

達磨先輩から貴重なアドバイスを受ける

・すぐに斎藤君の千里荘を訪ね合併話を提案

昭和39年1月18日

・合併

昭和39年1月

・伊澤教授に合併を報告し、西日本一周について相談
毎日、朝日、産経各新聞社を紹介された

・神屋敷局長にも報告、色々ご協力いただいた

・上林教授から部の運営についてご教授を受け、同時に体育会本部の竹中氏を紹介された

2月

・竹中体育会本部長を訪ね、サイクリング同好会創部と西日本一周サイクリング予定（今夏）を説明

・新聞社3社を訪問

・自転車メーカー5社を模索し、川村産業㈱に絞り交渉

開始

3月
2月～3月

- ・森教授（憲法）を顧問になっていただく
- ・在校生（1回生）を勧誘 16名入部

（3回生）

4月

- ・新入生勧誘 合計64名の大所帯となった
創部時の戸惑いから野望・期待へと胸膨らんだ
- ・基礎体力作り（経済学舎裏名神高速トンネルの上にて）

5月17日

- ・川村産業㈱と最終合意し契約締結

5月20日頃

- ・川村産業㈱からサイクリング車54台を購入
保管庫探しで達磨先輩に尽力していただく

5月24日

- ・初めて箕面公園ツアー実施

6月5日6日

- ・大津一泊ツアー実施

6月

- ・夏のイベントを企画

7月14日

- ・西日本一周ツアー出発（2名）私と新谷君

8月17日

- ・能登半島一周ツアー出発（8名）福岡君班長

8月20日

- ・南紀一周ツアー出発（15名）斉藤君班長

8月26日

- ・淡路島一周ツアー1班出発（13名）足立君班長

- ・ " " 2班出発（12名）川瀬君班長

8月29日

- ・大阪城へ全ツアー班凱旋

昭和39年9月

- ・神屋敷事務局長を訪ね報告と御礼、その時大島謙吉大先輩を紹介された

昭和39年10月10日

- ・東京オリンピック開会、団長は大島謙吉大先輩

11月3日

- ・奈良ツアー

昭和40年3月

- ・次期に引き継ぐ

（4回生）

昭和40年5月

- ・関大80周年記念行事の一環として「全国一周サイクリングツアー」を企画しているので同好会として賛助同行してほしいとの声が石村実行委員長からあった

昭和40年10月

- ・記念行事開始（5班に分かれてそれぞれの地点より

- 10月23日 出発)
・パープルブルーフェスティバル会場（大阪北区扇町大阪プール）に凱旋
- 昭和40年10月30日
～11月3日
・関大80周年記念祭開幕（第5回千里祭）
・関大80周年記念式典に関大サイクリング同好会代表として参列、
・「スポーツとしての自転車」と銘打って展示発表
- 昭和41年3月
・卒業

一目散に駆け巡った青春、あつと言う間の2年間。しかしすべてをやり遂げたという達成感があり、大きな自信を持ったのを覚えております。

現在関大自転車部はツアーのみでなく、体育会として色々な大会に出場して日本中でまた世界的にもその成果を上げ、関大自転車部の名声をあげています。

しかし私たちは、成長した今日ある自転車部の歴史の中で決して忘れてならないのは、創部時代の諸先輩、就中神屋敷終身校友会事務局長、伊澤教授、大島謙吉大先輩、達磨先輩、また川村産業(株)の方々等々のご支援であり、また創部以降自転車部を支え成長させたOB・OG諸氏の努力。これら諸先輩やご協力いただいた方々に対し敬意と感謝の念を、自転車部が存続する限り決して忘れてはならないと思えます。

自転車部の発展とともに、OB・OGが造る関輪会も今後とも発展させていかねばなりません。関輪会を創設してくれた3期の戸田君には大いなる敬意と感謝を申し上げます。今やこの関輪会から名誉ある人物も輩出されています。益々この関輪会を発展させ大きくしていかなければなりません。OB・OGあつての関輪会です。OB・OGの益々のご支援ご協力を念じ、この拙い自転車部創部時代の思い出文を閉じさせていただきます。関輪会と自転車部発展に少しでも参考になれば幸いです。

ありがとうございました。